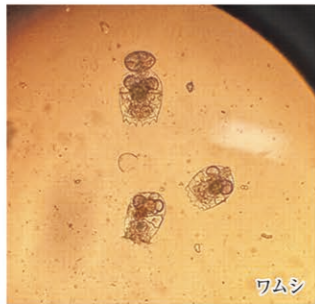


ワムシの培養

魚類グループ 木下 駿

皆さんは、生まれたばかりの魚は何を食べていると思いますか？ふ化したばかりの仔魚は体が数mmと小さく、口に入るサイズのプランクトンを必要とします。そのため、魚の成長に合わせて食べる餌を変えています。当館で生まれた魚には、シオミズツボワムシ(以下ワムシ)という全長0.1~0.3mmの小さな動物プランクトンを培養し、与えています。



用されています。当館では1トンの水槽におよそ5億匹のワムシを収容し、クロマグロの飼育実験をはじめ、クラゲやふ化仔魚の餌として利用しています。しかし、栄養が豊富な自然界とは異なり、培養されたワムシにはあまり栄養が含まれていません。そのため、給餌する魚に適した栄養を添加し、栄養価の高いワムシを作ることに努めています。



これからも限られた海の資源を守るため、ワムシの培養を通して魚類の繁殖と育成に向けて、培養技術を磨いていきたいと思っています。

ワムシは増殖能力が非常に高く、広範囲の塩分濃度に耐性を持っているので、海水魚の餌としてとても優れています。そのため、養殖される魚の初期餌料として多くの海水魚に利

あさむしNEWS

令和7年度からの入館料改定と「新しい休日のカタチ」

管理グループ 石田 勝則

当館では令和7年度より入館料を改定しました。青森県の子育て支援により、これまで有料だった小・中学生(510円)と高校生(1,030円)の入館料が無料になりました。(大人の入館料は1,200円に値上げ)今回の改定は単なる料金変更に留まりません。青森県が進める「年次有給休暇の取得促進」や「ワーク・ライフ・バランス*の実現」に向け、保護者の皆様が平日に来館しやすくなることで、混雑を避け、親子でゆったり過ごす時間をつくることにつながります。また、青森市などが推進する「ラーケーション*」の場としても、当館を活用しやすくなることを期待しています。働き方や休み方が変化する中、当館が「学び」と「癒やし」を両立で

きる家族の拠点となれば幸いです。子育て家庭がより利用しやすくなった浅虫水族館へ、ぜひご来館ください。

※ワーク・ライフ・バランス:仕事と生活の調和を図り、両者の充実を目指す考え方

※ラーケーション:学習(Learn)と休暇(Vacation)を組み合わせた取り組み



● 飼育生物

	種類	点数
海水魚	129	2,312
淡水魚	40	1,320
無脊椎動物	52	1,977
両生類	13	71
爬虫類	2	4
イルカ	2	8
アシカ	1	3
アザラシ	2	8
ペンギン	1	17
合計	242	5,720

2026年3月31日現在

● 入館者数

2025年度	一般	幼児など	入館者計
4月	13,608	10,409	24,017
5月	21,888	16,760	38,648
6月	13,426	12,923	26,349
7月	17,461	14,290	31,751
8月	36,796	26,854	63,650
9月	16,946	13,456	30,402
10月	12,954	11,561	24,515
11月	13,484	9,749	23,233
12月	9,186	6,175	15,361
1月	6,595	4,749	11,344
2月	7,941	5,045	12,986
3月	14,267	10,732	24,999
合計	184,552	142,703	327,255

表紙説明

まるで鏡のような魚、カガミダイ。水深200~800mの深海に生息しています。期間限定の展示となりましたが、銀色に輝く体色の美しい魚です。

マリンスノー No.46 2026年3月発行

青森県営浅虫水族館
〒039-3501 青森市浅虫字馬場山1の25
TEL 017-752-3377 FAX 017-752-3379
<https://www.asamushi-aqua.com>

Marine Snow

@asamushi aquarium



2026.3

青森県の深海魚

皆さんは、青森県にも深海魚がいることをご存じでしょうか？深海魚に明確な定義はありませんが、一般的には水深200m以深に主に生息する魚を指します。代表的なものとしては、リュウグウノツカイやメンダコなどが挙げられます。表紙の写真になっているカギミダイも深海魚です。数年前から深海魚がブームになっており、浅虫水族館でも遅れながらも深海魚に力を入れようということで、昨年からいろいろと情報収集を行っております。今までにもリュウグウノツカイなどは漁師さんの協力で手に入ることはありましたが、青森にはどんな深海魚が生息しているのかわかっていませんでした。そこで、いろいろなツテをたどり、運よく、八戸で深海の底引き網漁を行っている船に乗せてもらう機会を得ることができました。



水揚げされた深海魚

私も底引き網の船に乗せてもらえるということで当初ワクワクしていたのですが、実際の漁はとても過酷なものでした。この底引き網漁、なんと、1回海に出ると帰港するのは24時間後なのです。遠洋漁業というわけではなく、水深600mに網を落として引き上げることを繰り返して漁をするのですが、その網の上げ下げにとっても時間がかかります。漁のポイントに到着するまでに3時間、ポイントに到着してから、1回網を上げ下ろしするのに1時間かかります。作業コストの関係から、船いっぱいの魚を積んで帰港しないと採算が合わないため、24時間かけて漁をするのです。昨年度は計2回、乗船していますが、船酔いすると辛いなんてものではありませんでした。乗船人数の関係から、水族館からは私1人しか乗ることができません。そんな孤立無援の状態でも船酔いと戦いながら水族館へ持ち帰る魚の状態も見ると辛い作業の末、今まで見たことのない魚をたくさん採ることができました。その中で特筆すべきはココノホシギンザメ、フジクジラ、コブシカジカ、キチジです。これらの魚はたくさん漁獲され、水揚げされた直後は生きてることが多く、もし展示までこぎつけば、お客様に喜ばれる魚種です。しかし、現実にはそんなに甘くありませんでした。生きて水族館に搬入しても、数日でほとんど死亡し、よくて10日間生きるかな

魚類グループ 三浦 弘毅



イベントで展示した深海魚

という程度でした。いろいろな原因はあると考えられますが、これらの魚は海底から引き揚げられるときの水圧の変化には比較的強いように思えますが、一番は網による擦れと、水揚げされたときの魚同士の重みでつぶされるダメージであると考えられます。実際に固い外骨格をもつカニの仲間や、柔軟な身体をしているヒトデの仲間は展示することができました。

今回の乗船では展示できた魚は少なかったのですが、われわれ水族館職員でも見たことのない魚がたくさん採れたので、それをぜひ一般のお客様に見ていただきたいということで、今年度の2月に深海魚に触ることができる「深・タッチコーナー」というイベントを開催しました。残念ながら、記録的な積雪に見舞われたため、お客様の人数は少なかったのですが、それでも来ていただいたお客様には大変好評のイベントとなりました。

これからは生きた青森県の深海魚をお客様に見ていただくために、少し浅い水深での操業に乗船し、深海魚を展示できるまで試行錯誤していこうと考えています。



ココノホシギンザメ



ズワイガニ



ホウズギンボ

誕生からはじまる成長の日々

海獣グループ 加藤 愛

2025年4月28日にゴマフアザラシの「うしお」が誕生しました。当館では12例目、母親である「メイ」の5頭目の赤ちゃんです。大潮の日に産まれたことから、潮（うしお）をとり「海のように大きく逞しく育てほしい」という願いを込めて飼育員が名付けました。産まれた直後からよく動き回り、活発な印象を受ける個体でした。その様子は今も変わらず、あまり物怖じすることなく日々のトレーニングにも前向きに取り組んでいます。新しいこともすぐに覚え、初めての物や場所にも慣れるのが早く、日々驚かされてばかりです。食欲も旺盛で、誕生時には約10kgだった体重も、翌年の1月には35kgを超え順調に成長しています。また、アクリルガラス越しの人や物の動きに反応し、ジッと見つめたりクルクルと泳いだりする姿は、お客様にも強い印象を残して

いるようです。まるで一緒に遊んでいるかのような気持ちにさせてくれるその存在は、すでに海獣館の人気者となっています。未だ幼い表情と小さな体いっばいに溢れる全力の動き、そして日々元気に成長する姿が、今日も私たちの心を自然と明るくしてくれています。これからも、うしおの成長ひとつひとつを、ぜひ皆さんと一緒に見守っていただけたら嬉しいです。



生後3日目



アクリルガラス越しに反応する姿

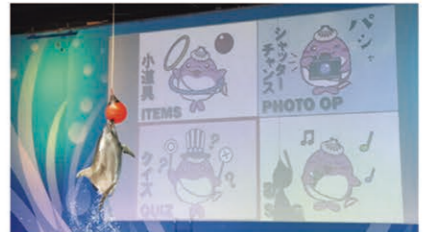
イルカパフォーマンスのリニューアル 「Our shining memory ～輝かしい思い出～」

海獣グループ 竹鼻 瞭

当館は1983年の開館以来、イルカたちの魅力を伝えるパフォーマンスを続けてきました。2025年7月、イルカパフォーマンスは新たな演出とともにリニューアルされ、「Our shining memory ～輝かしい思い出～」として再スタートしました。目玉はお客様と一緒に盛り上がることのできる「ルーレット企画」です。スクリーンで回転するルーレットを止めるのは、なんとイルカたち。空中の赤いボールにイルカがジャンプしてタッチすることでルーレットが止まり、次に行う種目が決まる仕組みです。「金魚ねぶた」を背景にした写真撮影や歌、クイズなどの4つの企画があり、何が選ばれるかはその時までわかりません。この試みは、お客様に異なる感動を与え

るだけでなく、イルカにとっては変化を感じて良い刺激となります。また、それに対応する我々の飼育技術の向上にも繋がっています。

大人には童心に帰るワクワクを、子供には未来への糧となる体験をお届けします。新しくなったパフォーマンスを通じて、皆さんの心に「輝かしい思い出」を刻むお手伝いができれば幸いです。



ルーレット写真

【爆誕】青森県の海の生物カード

広報企画グループ 久保 真司

2025年6月、青森県の海の生物を紹介する「海の生物カード」が誕生しました。このカードは、「生物カード」、「漁業カード」、「環境破壊カード」、「環境保全カード」の全54枚で構成され、カードバトル、かるた、図鑑など多様な遊び方を通して、青森の海を多角的に楽しく学べる教材です。館内にカードの体験コーナーを設置したところ、多くのお客様にご利用いただいております。当面の間、常設することにしました。また、1世帯にカード1箱をプレゼントする企画では、全国から506世帯の応募がありました。さらに、青森県内の子どもたちにとって地域の海への理解を深める教材となることを願い、小中高校約480校に1箱ずつを寄贈しました。このカードのデータは公式ホームページからダウンロードが可能で、

自作して学校や家庭で利用することができます。これまで3,652人の方に利用され、人気ようです。「さあみんな、生物カードをろうぜ！」



箱の表と裏



カードの一部

※本事業は船の科学館「海の学びミュージアムサポート」の支援を受けて実施しました。